

学力・学習状況調査の概要

国語

設問番号	学校の平均正答率
①一	76.4
①二	70.7
①三	85.4
②一	78.9
②二	85.4
②三	43.1
②四	26.0
③一	69.1
③二	54.5
③三(1)ア	86.2
③三(1)ウ	46.3
③三(1)エ	69.1
③三(2)イ	66.7
③三(2)オ	38.2

概要

前回までの結果と同様無解答率が低く、あきらめず自分なりに問題を解こうとしている様子が見られた。しかし、知識、特に漢字に関する部分は全く思いつかないのか、無解答にする児童が多かった。前半は全員が解答できているが、設問が進むほど無解答率が高くなっていることから、時間が足りなくなってしまう可能性もある。今後は時間配分にも気を配るように声を掛ける必要性がある。

特に成果が見られた問題例

②(三) 目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付ける問題では、記述式だったにもかかわらず、正答率は全国平均を約10%上回った。授業では、常にノートに自分の考えをまとめて書かせたり、書いたものを発表させたりする機会を適宜設けることで、力をつけてきている。

特に課題が見られた問題例

③三(1) 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、3年生で学習する漢字の正答率は高かったが、4、5年生で学習する漢字に課題が見られた。普段の漢字の指導はこれまで通り丁寧さを心がけた指導を継続しつつ、日記やノートなどでも既習の漢字を積極的に使うよう指導していく。設問イ「げんいん」を「原因」と書き直す問題では、正答率が全国や大阪府と比べて10%以上下回った。「げえいん」と覚えている可能性がある。文字で書くときと、声に出して読むときの違いがある言葉に弱く、漢字の読みと意味を結びつけて考えられていないと思われる。普段の漢字の学習から、漢字を使った短作文などを利用して、読んで書くことを意識させられるように、より丁寧に指導していく。

③三(2) 主語と述語との関係は捉えられたが、修飾と被修飾との関係は捉えられず、文の構成を理解することができていなかった。修飾と被修飾の関係は3年生小単元で学習する内容で、理解が不十分なまま進級している可能性があるため、朝学や授業などの長文読解の中でも、文法を意識した声掛けを積み重ねていく。これまで通り朝学を用いた読書タイムを継続し、文の構造に慣れ親しむ機会を設けるようにしていく。

算数

設問番号	学校の平均正答率
①(1)	56.9
①(2)	82.9
①(3)	61.8
①(4)	86.2
①(5)	82.1
②(1)	49.6
②(2)	70.7
②(3)	38.2
③(1)	95.9
③(2)	88.6
③(3)	72.4
③(4)	52.8
③(5)	78.9
④(1)	78.0
④(2)	52.8
④(3)	51.2

概要

領域では、「データの活用」に関する正答率は高かったものの、「数と計算」「図形」「測定」の「思考・判断・表現」の部分が、大阪府平均を下回っていた。また、学校の平均正答率は高かったものの、基礎的な知識が定着していない児童がいることもわかった。問題形式では、短答式、記述式において大阪府平均を下回っていたことから、文章表記する際に要点を落とさずに答える問題に課題が見られる。

特に成果が見られた問題例

無解答率は少なく、特に問題前半は0%、おおむね1%と、全国や大阪府の平均を大きく下回り、記述式の問題であってもあきらめずに何か書こうと取り組む姿勢が顕著に見られた。授業において、課題の提示から見通しを立てて自力解決に臨む流れが学校の指導方法として統一され、どの学年でも確立できているからと考えられる。

①(3) 速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかどうかの問題では、60%の正答率で全国平均を上回った。普段から、立式して答えを出すだけでなく、式や商の意味を考えさせる授業の積み重ねの効果の表れだと考えられる。

④(3) 記述式の問題だが、見本があるとそれをもとにして説明できる力があることがわかった。

特に課題が見られた問題例

①(1) 2つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く問題では、読み取り不足、説明不足や計算力不足が目立った。文章から必要な情報を読み取り、簡単な図や絵でかけるようにイメージ化する練習を積み重ねていく。

②(3) 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを記述式で答える問題では、正答率が38.2%と低かった。面積の公式のように、多数種類があるものを覚えきれていないことが考えられる。「底辺=下にある辺」「高さ=図形に書いてある辺」と捉えている児童も多かった。授業では基礎基本の部分を繰り返し指導していく。また、条件にある「見えない高さ」について文章表記することの難しさもあったようだ。日頃から記述式の問題に必要な情報を落とさずに書くことに慣れさせる必要もあると考える。

すくすくウォッチ（教科横断的な問題わくわく問題）

観点別	学校の平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しく捉える。	51.6
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。	73.2
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事がらを考える。	67.3
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。	33.9
E 興味関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	91.9

概要

文章や会話など、1つの資料から読み取る力がついてきている。他の教科と同じく、初めて出合うタイプの問題でも何とかして解こうとする意欲は高い。

特に成果が見られた問題例

3 熱中症という身近な題材で考えやすかったことに加え、例を真似してでもまず取り組むように指導してきているため、何かしら書こうと挑戦できていた。（ただし解答の幅が広いからか、無解答率も高い。）成果に結びついた活動として、どの授業においても自分の思うように表現すること、そしてそこから出た様々な発想を認め合ってきた積み重ねが生きたのではないかと考えられる。

特に課題が見られた問題例

1 (1) 多くの資料の中から必要な情報を読み取り、整理していく力に課題が見られる。今回は数量関係の比較が求められていたが、そこで比較箇所の読み取り間違いや、計算ミスが起こった可能性がある。また、社会の諸問題について図や表から読み取る力が低くなっている。それらを普段目にする機会もなくなっている。情報の取捨選択に慣れ、社会の諸問題について普段から考えるきっかけにもなるように、新聞記事を活用する機会を設けていく。

学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの概要

児童アンケート

特に成果が見られたアンケート項目例

学調40 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という項目に当てはまると回答した児童は約48%で、大阪府に比べると約20%高かった。肯定的回答になると84%となり、自分たちで企画し、友だちと協力して話し合いを進行することができていることがわかった。今年度からクラブや委員会数を増やし、児童同士のつながりをより深くもてるようにしている。また、学校で縦割りのグループを組み、異年齢集団で遊びを企画し実行する、そしてうまくいかなかったことは反省して次に生かす取組にすることで、他者を思いやり協力できる素地を養っている。それらを通して培った力を学級でも反映させることができているのではないかと考えられる。

特に課題が見られたアンケート項目例

学調4 すくすく91 学力調査での「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という項目では、ルールを守っていると回答した児童が多数を占めるが、家で約束はないと回答した児童も約11%いる。すくすくウォッチのアンケートにおいて、11時以降に寝ている児童が約30%もいることから、日常的に寝る時間が遅くなり、生活リズムが乱れている可能性もある。ネットの依存性や身近に潜むトラブル等の危険性を学校でも伝えていく必要があると考える。その上で、新しく導入されたタブレットの正しい使い方も伝えていく。

結果を受けて

《学校が重点的に取り組んでいくこと》

《国語》

- ・日記やノート等を書く際、積極的に既習の漢字を使用するよう指導する。
- ・普段の漢字の学習から、漢字を使った短作文などを使用し、意味を考えながら読み、書く指導をする。
- ・読書の時間等を利用し、長文を読み、文章構成に慣れ親しませる。
- ・文章の中のキーワードやキーセンテンスを見つける指導をする。

《算数》

- ・文章から必要な情報を読み取り、簡単な図や絵でかけるようにイメージ化する指導をする。
- ・時間の感覚がつかみにくい、何分間、何分前、何分後など、日常生活の中で指導をする。
- ・面積の公式のように多数種類があるものを覚えるため、日頃から記述式の問題に触れるよう指導する。
- ・情報を取捨選択していくことができるよう、情報過多の問題に慣れるよう指導する。

《児童のみなさんに取り組んでほしいこと》

- ・問題を解くために、最後まで続ける努力、何かを書こうとする努力が見られた。今後とも続けてほしい。
- ・授業を大切にし、めあてを持って取り組む。
- ・習った漢字を忘れないよう繰り返し練習をする。文章を読むときに、漢字の意味を考えながら読むようにする。文章を書くときに、習った漢字を積極的に使うようにする。
- ・初見の文章をすらすら読み、内容を読み取ることができるよう、日々の音読を大切にする。
- ・日常生活の中で、たす、ひく、かける、わるを使っていることを意識する。
- ・日常生活の中にあるたくさんの情報から、必要な情報を選びだし活用する力をつける。

《保護者のみなさまに協力してほしいこと》

- ・今回の調査では「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束をしたことを守っていますか」の項目で、家の人と約束をしている人の内“守っている”と答えた子どもが100%でした。しかし、ネット等によるトラブルは多くなっています。また、毎年、携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、ゲーム機等を長時間使用する子どもは、正答率が低い傾向があり、今回も同様の結果が出ています。携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、ゲーム機等の使用について改めてお子さまと確認をしてください。
- ・情報を整理する力が高ければ高いほど、正答率も高い傾向にあります。日常生活の中にあるたくさんの情報の中から、本当に必要な情報を見つけられるよう、社会の諸問題について考えるきっかけを作ってください。